※令和４年度以降入学生用

学校番号	107

令和８年度　音楽科

教科	音楽	科目	声楽 （独唱）	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高校生の音楽２（教育芸術社）						
副教材等	イタリア歌曲集１・コンコーネ 50 番（全音出版）・日本歌曲名歌集（原調版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

この授業では、イタリア歌曲集とコンコーネ５０番、ファイル、筆記用具、進度に合わせて使用する楽譜を各自持参してください。専門実技の力を伸ばすためには不断の努力が必要です。日々の練習時間を毎日の生活で確保し、指導された内容について復習を十分に行いましょう。楽曲に取り組む際、ソルフェージュや音楽理論の知識や技能を応用し、楽曲の表現内容の理解を深めレッスンに臨みましょう。１年生で身に着けた基礎的な技能や音楽性をさらに充実・深長させる年です。

普段の授業の成果を発表する場として、学内演奏会（ピッコロコンチェルティスタ）があります。試験の課題に加え、進度に合わせ本番で演奏する機会を積極的に持ちながら学んでいきましょう。

２　学習の到達目標

声楽に関する専門的な学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次の通り育成することを目指す。

【知識及び技能】楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に歌唱表現するために必要な技能を身に付けるようにする。

【思考力・判断力・表現力等】音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもつことができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】音楽性豊かな表現を追求する態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・楽器である身体の仕組みや楽曲の表現内容について、曲想、歌詞、音楽の構造などに加え、文化的・歴史的背景との関わりなどについて理解をしている。【知識】 ・自分の表現意図をもって、創造的に歌唱表現するために必要な技能（曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能や、表現形態の特徴を生かして歌う技能など）を身につけて、歌唱で表している。【技能】	歌詞の内容や、言葉の持つ語感について考え、音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように歌うか、他の声部との関わり合いをどのように歌うかによって表現意図を持っている。また楽曲の文化的・歴史的背景や様式を踏まえた歌い方や音楽性豊かな表現について考え、創意工夫の過程において知識技能を生かし、どのように歌うかについて表現意図を持っている。	様々な時代や様式の音楽、地域やジャンルなどによって異なる多様な音楽について主体的に学習し、自分の声種や声の特徴などを生かした音楽性豊かな表現を追求する過程に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価します。年度末評定については専攻によって評価の比率が異なるため、教科担当より説明します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	題材	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	練習方法の確立・発声の基礎・イタリア古典歌曲の導入	①　練習方法の発展 マンツーマン指導による形態。担当教員より指導内容が次の授業や試験で改善されるよう日々の練習方法の内容について見直す ②　イタリア語・日本語・ドイツ語の歌唱時の発音 ・舌や唇の使い方 ・日本語との発音の違いに注目して基礎的な発音法を身につける ③　呼吸法や体の使い方について実践を通して理解を深め、実践できる技術を学ぶ 【主に取り組む課題Ⅰ】 コンコーネ 50 番/17-25 番 C.W.Gluck/O del mio dolce ardor Caccini/Amor ch'attendi A.Scarlatti/Se Florindo e fedele A.Stradella/Se nel ben F.Durante/Danza fanciulla G.Torelli/Tu lo sai 平井康三郎/平城山 瀧廉太郎/秋の月 瀧廉太郎/納涼 中田喜直/むこうむこう 信時潔/行々子など	a:【知】 ・コンコーネやイタリア古典歌曲についてリズム、速度、旋律、歌詞、強弱など楽譜に表記されていることを正しく理解している。 ・表現内容について、曲想、イタリア語や日本語・ドイツ語の歌詞の内容、音楽の構成などに加え、作曲家や作詞家の文化的・歴史的背景などの関わりについて理解している。 【技】ベルカント唱法で表現するために必要な発声・イタリア語・日本語・ドイツ語の発音、身体の使い方などの技能を身につけ、どのように歌うかについて歌唱で表している。 b：曲種に応じた歌詞の内容や、言葉の持つ語感とフレージングについて考え、音楽の構造を分析し、創意工夫の過程において知識技能を生かし深めながら、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 c:イタリア古典歌曲が作られた音楽や様式について、自分の声種を確立しながら、声の特徴を生かした音楽性豊かな表現に関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	第1回 実技 試験	第1回 実技 試験	日々のレッスン記録ワークシート 見取り 振り返りシート 【試験前】 振り返りレポート 【試験後】

※令和４年度以降入学生用

後期①	正確な読譜力と豊かな歌唱表現への発展・日本歌曲へのアプローチ	④ 練習方法の振り返り 振り返りシートを用い、日々の練習のあり方を見直し工夫を重ね改善する・ ⑤ ドイツ歌曲についての知識や歌唱技術および表現について知識を理解し学ぶ ・言葉の発音 ・ベルカント唱法における日本語の扱い方 【主に取り組む課題Ⅱ】 コンコーネ 50 番/26-35 番 G.Carissimi Vittoria mio core A.Scarlatti Le violette M.A.Cesti Intorno all'idol mio G.B.Bassani Dormi bella dormi S.Rosa Vado ben spesso G.Legrenzi Che fiero costume 山田耕筰 かやの木山の 山田耕筰 鐘が鳴ります 中田喜直 風の子供 中田喜直 おやすみ 中田喜直 たんぽぽ	a:【知】 ・コンコーネやイタリア古典歌曲についてリズム、速度、旋律、歌詞、強弱など楽譜に表記されていることを正しく理解している。 ・表現内容について、曲想、イタリア語や日本語・ドイツ語の歌詞の内容、音楽の構成などに加え、作曲家や作詞家の文化的・歴史的背景などの関わりについて理解している。 【技】ベルカント唱法で表現するために必要な発声・イタリア語・日本語・ドイツ語の発音、身体の使い方などの技能を身につけ、どのように歌うかについて歌唱で表している。 b：曲種に応じた歌詞の内容や、言葉の持つ語感とフレージングについて考え、音楽の構造を分析し、創意工夫の過程において知識技能を生かし深めながら、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 c:イタリア古典歌曲が作られ	第2回 実技 試験	第2回 実技 試験	振り返りシート (次の目標) 日々のレッスン記録ワークシート 見取り 振り返りレポート 【試験前】 振り返りレポート 【試験後】

※令和４年度以降入学生用

後期②	安定した歌唱力を目指し、歌唱表現の幅を広げる	⑥ 呼吸法や発声法の定着・理解したことの知識を実践し、粘り強く継続することにより歌唱技術を高め、豊かな歌唱表現の幅を広げる。 ⑦ ドイツ歌曲についての知識を生かし、実際に歌唱に取り組みながら学び深化する。 【主に取り組む課題Ⅲ】 コンコーネ 50 番/36-40 番 V.Bellini Ma rendi pur contento V.Bellini Vaga luna che inargenti F.P.Tosti Sogno S.Donaudy O del mio amato ben S.Donaudy Spirate pur spirate L.v.Beethoven Ich liebe dich J.Brahms Dein blaues Auge F.Schubert An die Musik R.Schumann Du bist wie eine Blume W.A.Mozart An Chloe F.B.Mendelssohn Auf Fluegeln des Gesanges F.Schubert Fruehlingsglaube	た音楽や様式について、自分の声種を確立しながら、声の特徴を生かした音楽性豊かな表現に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	第3回 実技 試験	第3回 実技 試験	日々のレッスン記録ワークシート （次の目標） 見取り 振り返りシート 【試験前】 振り返りシート 【試験前後】

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

※ 学習内容にあげた曲は課題曲として示されたものであり、全てに取り組むという意味ではない。また個別の専門的な指導の中で個に応じて他の曲も学習する。